

弦楽器の音色を生かして 四重奏を楽しもう！



【学習前アンケート】 □に check ✓ をつけてください。

Q1, 弦楽器の演奏経験は？ □ある (楽器名: _____ 期間: _____) □ない

Q2, 弦楽器の生演奏を聴いたことは？ □ある (曲・場面: _____) □ない

Q3, 弦楽器は身近な存在ですか？ □はい □いいえ □どちらでもない

Q4, 弦楽器の「魅力」「イメージ」「今現在、知っていること」は？ (*思いつくことをたくさん記述しましょう!)

()

1年組 番 氏名:

弦楽器に親しもう！【事前学習】

1, 授業で使用する楽器について学習しよう！

■ヴァイオリン

ヴァイオリン属の弦楽器の中で最も小さく、最も高い音域を出せる楽器です。声楽ではソプラノの音域にあたります。はっきりとした起源・発明者はわかりませんが、7,8世紀ごろに擦弦楽器の一つとされるレベック(Rebec)などが段々と改良され、15世紀の末期にはビオール(Viol)という楽器に進化し、やがて現在の形になったといわれています。また16世紀中ごろには、現在のものほとんど変わらない高度に完成されたヴァイオリンが出来上がっていたとされています。17世紀以後、イタリアではアマティ・ストラディヴァリ・グァルネリなどの製作者たちが活躍しました。この時代のヴァイオリンは現在でも「名器」として受け継がれています。

■ヴィオラ

ヴァイオリンよりも大きく厚みがあり、やや低い音域を出せる楽器です。声楽ではアルトの音域にあたります。ヴィオラのために書かれた独奏曲は少ないため、影の存在になりがちですが、内声部を支える縁の下の力持ちとして大変重要な楽器です。オーケストラの中では弦楽器と管楽器の仲介役としての役割を持っています。ルネサンスやバロック時代は膝に挟んで演奏するヴィオラ(ヴィオラ・ダ・ガンバ)とあごに挟んで演奏するヴィオラ(ヴィオラ・ダ・ブラッチョ)の2種類がありました。後者のあごに挟んで演奏するヴィオラが現在のヴィオラの祖先にあたります。18世紀の中ごろまではオーケストラでしか使用されていませんでしたが、弦楽四重奏の発達・発展に伴い、室内楽に欠かせない楽器となりました。

■チェロ

チェロの音域はヴァイオリンやヴィオラより低いのですが、その音域は私たち人間の声に一番近い楽器と言われています。声楽ではテノールの音域にあたります。構造的にはヴァイオリン等とほぼ同じですが、低音と音量を出すために全体が大きく作られており、特に木の厚みも増しています。弦も太く丈夫に作られており、それに伴って弓もヴァイオリンと比較して太いですが、長さは逆に短くなっています。今のチェロの形になる前の楽器(ヴィオラ・ダ・ガンバ)などは両足で挟み演奏していましたが、現在では改良され、エンドピンを伸ばし床に立て安定させて演奏を行います。この改良によりチェロの演奏技術が飛躍的に大きくなっていきました。現在のチェロの演奏スタイルが確立されたのはヴァイオリンより200年ほど後のことです。18世紀になるとJ.S.バッハやヴィヴァルディといった作曲家の登場によって多くのチェロ作品が作曲され、ヴァイオリンに並ぶほどの独奏楽器に発達していきます。

【楽器の材質について】

3種の楽器とも、一般的に、表板にはスプルース(西洋の松)、横板と裏板にはメイプル(かえで)が使われています。同じ種類の木材でも産地により、また1丁1丁でそれぞれ違いますし、木目によっては高級なものとして扱われています。木材は伐採され、乾燥させたものを使用しますが、この乾燥にかける年月によっても価値が違ってきます。楽器の命である音の響き・音色を良くも悪くも左右するのは木材であり、楽器を形成する材質が名器を生む非常に重要な要素となっています。

2、楽器の「音色・響き」を聴き比べ、それぞれの印象や特徴など、気付いたことを記入しよう！

■J.S.バッハ作曲：「無伴奏チェロ組曲第5番」より ※同じ曲を異なる楽器の演奏で聴き比べましょう。

3種類の楽器（Aヴァイオリン・Bヴィオラ・Cチェロ）の「音色・響き」を聴き比べて気付いたこと。

3、「弦楽四重奏（String Quartet）」の多彩な響きを味わい、その特徴や魅力について記入しよう！

「弦楽四重奏」は、ヴァイオリン属4本の楽器からなる合奏形態を指し、2丁のヴァイオリン、1丁のヴィオラ、1丁のチェロによって構成されます。主に1stヴァイオリンが主旋律、2ndヴァイオリンとヴィオラが内声部、チェロが伴奏を受け持ちます。歴史上、最初の弦楽四重奏曲は、イタリアの作曲家スカルラッティ（1660-1725）の作品だと言われています。その後、他の作曲家もこのスタイルを真似して楽曲を作り始めてヨーロッパ中に広まり、「弦楽四重奏曲の父」と呼ばれたハイドンへ受け継がれていきました。モーツァルトやベートーヴェンも作曲したことにより、弦楽四重奏はクラシックの王道であると言われるようになり、後の音楽家にも大きな影響を与えました。

主な
役割

- ・第1ヴァイオリン…カルテットのリーダー役。旋律を奏で、全体をリードしていく。
- ・第2ヴァイオリン…第1ヴァイオリンに寄り添ったり、ヴィオラと共に内声部を構成したりする。
- ・ヴィオラ …内声部を支えつつ、ヴァイオリンとチェロとの仲介役を担う。
- ・チェロ …縁の下の力持ち。でも実は下から音楽性の方向を導く影のリーダー(?!)。

■ハイドン作曲 弦楽四重奏曲第39番より 第4楽章 ロンド （約3分）

■ボロディン作曲 弦楽四重奏曲第2番より 第3楽章 ノクターン （約8分）

■ドヴォルザーク作曲 弦楽四重奏のための2つのワルツより 第2曲 （約3分）

■【映像】ブラームス作曲 弦楽四重奏曲第3番より 第3楽章 （約8分） 奏者の役割や動きに注目してみよう！

4、基礎知識①【楽器・弓】

周囲の人と協力して【 】空欄をうめましょう！

■楽器本体

①【弦（げん）】

楽器本体に張ってある線の事です。低い方の三本はナイロンかガット（羊の腸）に金属が巻いてあるもの、高い方の一本は芯まで金属（スチール）で出来たものが通常使用されます。ドイツ語の音程で呼ぶのが通例です。

②【駒（こま）】

弦と胴体をつなぐ木片。立てる位置や削り具合で音量・音色、弾き加減が大きく変化します。

③【指板（しばん）】

指を押さえる黒い部分です。指板の調整具合によって、音程の取りやすさが大きく変わります。

④【糸巻・ペグ】

弦を巻き付ける部分。回すことも技術が必要になります。また、動きにくい場合は調整が必要です。

⑤【アジャスター】

弦の張りを微調整するための器具。

⑥【肩当て・あご当て】

ヴァイオリン・ヴィオラを演奏する際に支える補助器具。本来はなくてもよい器具ですが、現在は使って演奏することの方が多いと云えます。

⑦【エンドピン】

床に刺してチェロを支える棒です。コントラバスにも付いています。伸縮可能で、演奏者の身長（座高）などに合わせて調節します。ヴァイオリンやヴィオラは弦の張力に耐えるパーツとしてついています。

■弓

⑧【棹・スティック】

弓の棒の部分。通常、木製・カーボン製。この棒の材質や削り具合で音量・音色・弾き加減が大きく変化します。

⑨【弓毛】

馬のしっぽを使用します。松脂（まつやに）を塗ると音が出るようになります。半年～一年に一度程度の周期で交換が必要です。

⑩【ねじ・スクリュー】

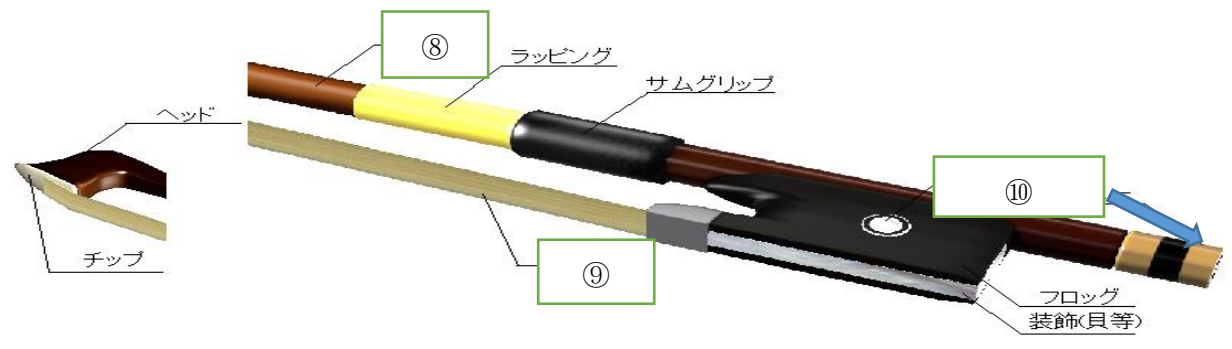
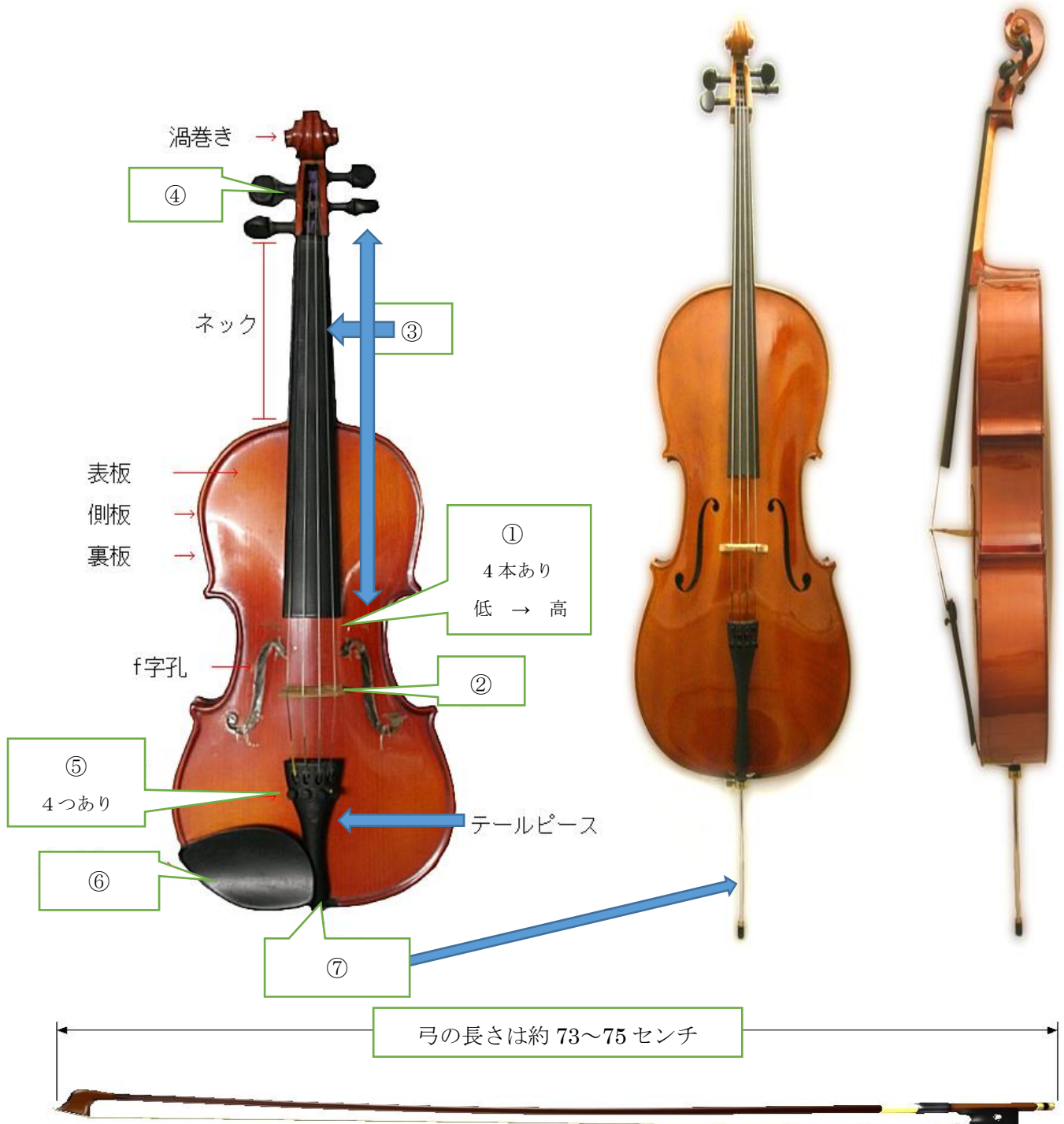
スティックの端についている回す部分。これを回すと弓の毛の貼り加減が変わります。調整して適度な張りにして使用します。

⑪【松脂】

弓の毛に塗る樹脂です。これを弓の毛に塗ることで音が出ます。

ヴァイオリン (ヴィオラ)

チェロ



弓

5、基礎知識②【演奏技術】

周囲の人と協力して【 】空欄をうめましょう！

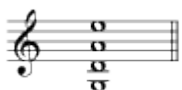
①【調弦・チューニング】

あらかじめ弦の音程を合わせておくこと。

ヴァイオリン【低 G → D → A → E 高】

読み方： ゲー デー アー エー

■ヴァイオリン



ヴィオラ・チェロ【低 C → G → D → A 高】

読み方： ツエー ゲ デー アー

■チェロ



※【 開放弦 】

指で弦を押さえずにそのまま弾くと、この音程が鳴る。

②【ボーイング】

弓の動かし方。美しい音を出すには、弦を押さえる左手よりも、弓を動かす右手の方が訓練に時間と労力が必要になると言われています。

③【㉠： 元（もと）】【㉡： 先（さき）】

弓を持つ手に近い側を㉠、また、手から離れた箇所のことを㉡と呼びます。また、弓の先端付近で弾くことを「先弓（さきゆみ）で弾く」、弓の中央付近で弾くことを「中弓（なかゆみ）で弾く」、弓の手元付近で弾くこと「元弓（もとゆみ）で弾く」などと表現されることがあります。

④【㉠： 下げ弓（ダウンボー・ダウン）】【㉡： 上げ弓（アップボー・アップ）】

弓の元から先に動かすことを㉠、弓の先から元に動かすことを㉡と呼びます。どちらで演奏してもほぼ同じ音色・響きになるように訓練します。楽譜上では、㉠を ▮ 、㉡を ▽ と表記します。

⑤【移弦（いげん）】

ある弦から別の弦へ弓で擦る弦を変えること。これがスムーズにできないと音が途切れ、音楽もつながりなくなってしまいますので、訓練は大切です。

⑥【㉠： フィンガリング】【㉡： 指番号】

左手の指を押さえる動作のことを㉠と呼びます。押さえる指によって音色が多少違ったり、フレーズのつながりに影響します。指の指定のために、ピアノなどと同じく㉡を使用しますが、ピアノと違い、弦楽器では人差し指を1の指、中指を2の指、薬指を3の指、小指を4の指と呼びます。何も押さえない状態を開放弦と呼び0と表記します。

⑦【ポジション移動／シフティング】

左手を押さえる位置を変えること。左手の押さえる位置は、必要とする音の高さや音色によって変化させます。

⑧【㉠： 弓を寝かせる】【㉡： 弓を立てる】

弓で弦をこするときには、通常100本ほど張ってある弓の毛を全て使うことが原則ですが、使用する弓の毛の分量を調整しながら演奏することが多々あります。弓の毛を全部使わず、弦に触れる部分を少なくして演奏することを㉠、すべての毛を使って演奏することを㉡と表現します。

弦楽器を演奏しよう①【楽器体験&レッスン】

今後の大まかなスケジュール

- ① 楽器体験 → 楽器決め（開放弦・きらきら星）→ 講師による2回の楽器レッスン
- ② 楽器ごとのセクション練習。同じ楽器の中で、3～4名程度のグループを組んで取り組みます。
- ③ 弦楽四重奏団の結成！ 演奏会へ向けての準備！（後半で、講師によるレッスンが入るかも!?）
- ④ 演奏会（12月上旬を予定）

■担当楽器【 】

★実際に楽器を演奏してみて感じたこと

★レッスンで知りたいこと

講師による2回の楽器レッスンはとても重要です。上記②以降は、レッスン内容について振り返りながら自力で練習していくことになります。講師の先生の「音の出し方」「弓の使い方」「音色・響き」などに注目し、今後の取り組みに生かせるよう、重要だと感じたことは下の「レッスンの記録」にメモしておくこと。

■レッスン日 1回目【 】 2回目【 】

■レッスン教室【 】 ※授業の開始時間 厳守！ 貴重な機会を有効に活用しましょう！

レッスンの記録

1回目	2回目

※Google Classroomに講師の先生による演奏動画をアップロードします。課題曲の演奏の様子が各パート2種類ずつありますので、レッスンの内容を補うものとして活用しましょう！

弦楽器を演奏しよう② 【セクション】

3～4名でのセクション練習の最初に、グループ内で「ブレイン・ストーミング」を行きましょう！

ブレイン・ストーミングとは、複数人でアイデアを出し合うことで創造的かつ効果的な発想を生むことを目的としています。レッスン内容や動画を参考にし、表現に必要な演奏技術の向上を目指しましょう！

■ブレストのテーマ：「美しい音色で演奏するために必要なこと」

- ・進行役を決めて毎時間 10 分以内で行う。練習中に随時アイデアを出し合いシートに反映させても OK！
- ・最初に下の「本時の目標」を全員で決め、それに沿った内容を中心にアイデアを出し合うようにする。
- ・アイデアは「ブレスト シート A」に付箋で貼り付ける。どんな意見も否定せず、何でも試してみる！
- ・アイデアを実践し、うまくいったものには「O」をつけるなど、「ブレスト シート」を整理していく。

セクション練習の記録

月 日 (曜日)	本時の目標 ～ 活動の見通し ～	振り返り (ブレストからの実践+成果の検証)	
		何のために、何を実践したか	できたこと・実践の成果
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			



●セクション練習で「できたこと・実践の成果」を、『弦楽四重奏での表現』にどのように役立てるか？

弦楽四重奏を演奏しよう【アンサンブル】

■チーム名：弦楽四重奏団「」

第1ヴァイオリン：	ヴィオラ：
第2ヴァイオリン：	チェロ：

■課題曲に対する考察（※曲の内容や構成・作曲者・時代や歴史的な背景などについて調べ、まとめよう！）


■ブレストのテーマ：「弦楽四重奏で魅力的な表現をするために必要なこと」 ※ブレストシートBを使用
四重奏でポイントになるのは、「4人の役割が違う」（P.2参照）ということです。自分の音だけでなく、他の人の演奏にも関心を持ち、耳を傾ける必要があります。どうすれば一体感のある魅力的な表現ができるようになるのか。そのためにどんな工夫や技術が必要なのか。ブレストで学習を深めながら身につけていきましょう！

弦楽四重奏 練習の記録

月日 (曜日)	本時の目標 ～ 活動の見通し ～	振り返り (ブレストからの実践+成果の検証)	
		何のために、何を実践したか	できたこと・実践の成果
／ ()			
／ ()			
／ ()			
／ ()			

弦楽四重奏を楽しもう！【演奏会】

●課題曲の考察・練習の記録・ブレストシートBを参考に、演奏会に向けての表現目標を明確化しましょう！

演奏会の表現目標 ※4人共通	目標達成のため自分が具体的にすべきこと（個人目標）
	

●演奏会本番に向けて、リハーサルでは「ステージマナー」も身につけよう！動作はスマートに！

- ・ステージに入場したら自分の席の近くに立ち、客席へ向けて礼をする。表情はにこやかに！
- ・礼が終わったら着席し、楽譜の準備やセッティングの微調整をする。できるだけ短時間で！
- ・演奏が終わったら起立し、拍手に応じて礼をする。退場時にもにこやかに！

●演奏会の振り返り・学習のまとめ 【※要点を絞って記述すること】

上記目標達成のため、①どんな技術を②どんな方法で身につけ、③どのように演奏に結び付けようとしたか。

弦楽器の「魅力」とは？（※学習前と後で、弦楽器に対するイメージや考え方はどのように変わったか。）

【鑑賞】2種類の演奏に対し、今回の経験を生かして、音色や奏法の特徴等に留意しながら「批評」する。

弦楽器の演奏を楽しめましたか？ 充実した学習ができましたか？ 力を身につけることができましたか？

満足度・自己評価 5 4 3 2 1 一つ〇をつけてください。